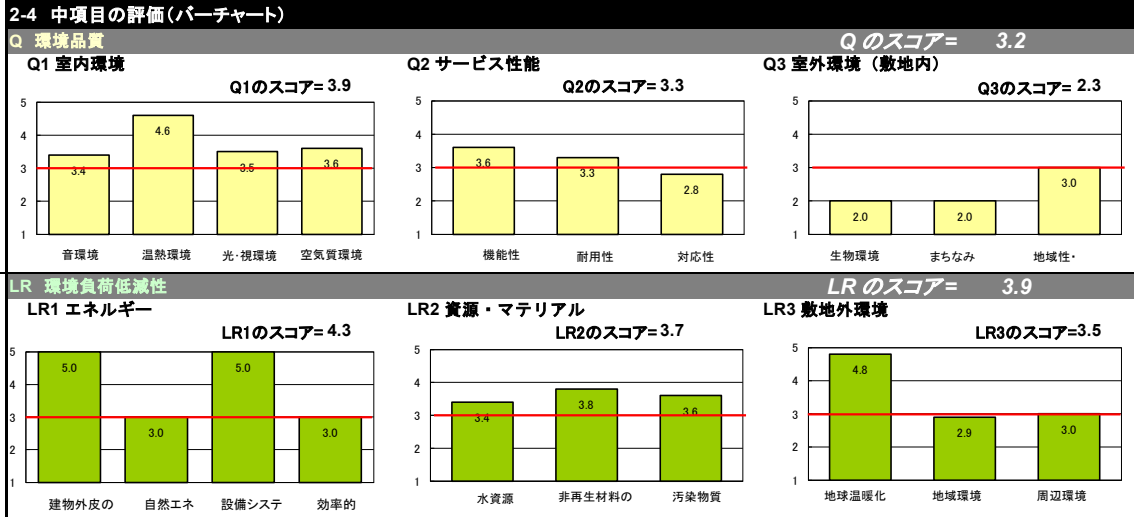
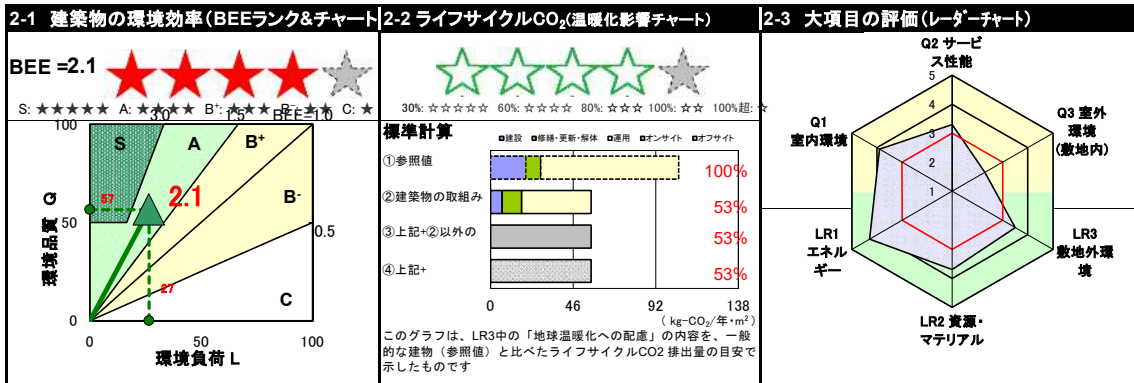


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安城市末広町	階数	地下0階地上15階
建設地	愛知県安城市西三河都市計画事業安城南 明治第一土地区画整理事業33街区第1号(従 前地 末広町6-7-8-8-1・12-8-23-190)	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	112人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2026年3月5日
敷地面積	818㎡	作成者	株式会社玉岡設計 佐藤満
建築面積	309㎡	確認日	2026年3月5日
延床面積	3,848㎡	確認者	株式会社玉岡設計 佐藤満



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>25.7%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0%</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 - LR-3-1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
 - Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
 - LR-2-2 非再生性資源の使用削減
- ③敷地内の緑化
 - Q-3-1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)安城市末広町

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
		Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				0.1	4.0	0.15	3.3	3.3	1.00	3.4
1.2 遮音				3.0	3.0	0.50		3.0		0.50
1 開口部遮音性能		遮音性能T-2以上の建具を採用		0.5	5.0	0.50		3.6		0.50
2 界壁遮音性能								5.0		0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0		0.30
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0		0.20
1.3 吸音								3.0		0.20
2 温熱環境										
2.1 室温制御				0.3	3.0	0.35	5.0	5.0	1.00	4.6
1 室温				0.5	3.0	0.50	5.0	5.0	1.00	
2 外皮性能		断熱性能等級5		3.0	3.0	0.63		5.0		1.00
3 ゾーン別制御性				3.0		0.38				
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30				
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				0.2	3.0	0.25	3.7	3.7	1.00	3.5
1 昼光率		住居昼光率2.0%以上		0.4	3.0	0.43	4.0	4.0	0.35	
2 方位別開口				3.0				5.0		0.50
3 昼光利用設備				3.0	3.0	1.00		3.0		0.30
3.2 グレア対策							4.0	4.0		0.35
1 昼光制御		カーテンと庇でグレアを制御		5.0				4.0		1.00
3.3 照度				3.0	3.0	0.21				
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.36		3.0		0.29
4 空気質環境										
4.1 発生源対策				0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	3.6
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用		0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
4.2 換気				3.0	4.0	1.00		4.0		1.00
1 換気量				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0		0.38
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.50		3.0		0.33
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0		0.33
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0						
2 喫煙の制御				3.0						
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.7	0.40	3.8	3.8	1.00	3.6
1 広さ・収納性				0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応		光回線の引き込みがある		3.0						
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	1.00		5.0		1.00
1.2 心理性・快適性				0.3	1.0	0.30	2.0	2.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0				3.0		0.50
2 リフレッシュスペース				3.0						
3 内装計画				3.0	1.0	1.00		1.0		0.50
1.3 維持管理				0.3	4.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において、該当する項目数が標準以上		3.0	4.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能の確保において、該当する項目数が標準以上			4.0	0.50				
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	3.3	0.31				3.3
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.9	0.33				
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級3			5.0	0.23				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	二丁掛タイル・磁器質タイルを採用のため40年			5.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用しEは不使用			5.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔					2.0	0.23				
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法	②			3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20				

3 対応性・更新性					0.2	3.0	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	-	2.6	2.6	-	0.50
1 階高のゆとり					-	-	-	-	3.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	-	-	2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				断熱性能等級5	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.78	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	-	-	-
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング					-	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				節水水栓・節水便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	-	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	住戸設置の便器、押出法ポリスチレンフォーム、散水栓	3.0	5.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能・再利用できるユニット材を採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材を採用	-	5.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率53%	-	4.8	0.33	-	-	-	4.8
2 地域環境への配慮					0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自	適切な駐輪・駐車スペースを確保し、渋滞緩和に配慮	-	4.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート
(仮称)安城市末広町

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:25.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)安城市末広町

計画上の配慮事項	
総合	高い省エネ性能(断熱性能等級5相当・BEI=0.80以下)により、室内環境の向上・設備の高効率化に配慮している。
Q1 室内環境	採光が十分にとれる窓やF☆☆☆☆の建材の採用により、室内環境の向上に配慮している。
Q2 サービス性能	耐用年数が高い建材・配管の採用により、建物耐用性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽を計画している。
LR1 エネルギー	高い省エネ性能(断熱性能等級5相当・BEI=0.80以下)により、設備の高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水機器やリサイクル材を採用し、資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	特に無し
その他	特に無し